

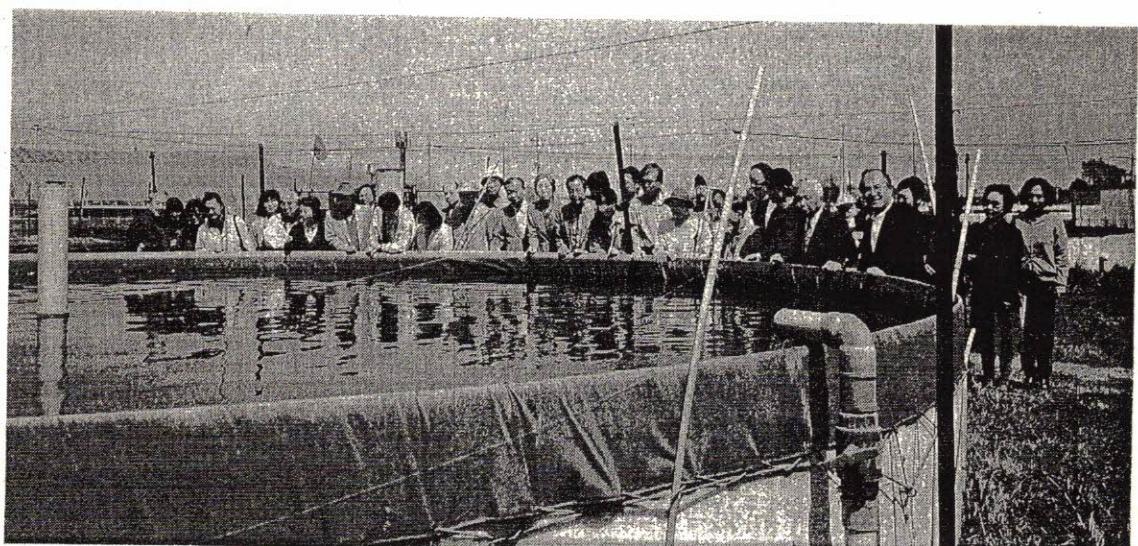
# 会報 (第16号)

## 目 次

特集1 : エバ・ペロンと日本、その 知られざるつながり	2
特集2 : アルゼンチンの金鉱、銅鉱に 群がる世界資本	4
日経新聞 (春秋コラム) が指摘した 「よみがえるアルゼンチン」	6
アルゼンチン政治・経済速報	6
・政治・経済	
・アルゼンチンは「まったく別の国」になった タンゴ物語 (5)	9
アルゼンチン留学案内	11
現地だより	11
・天皇、皇后両陛下のご訪ア	
文化行事	12
・タンゴ演奏会	
・ユパキン祭り	
お知らせ	14
人事往来	15



法人団 日本アルゼンチン協会  
会報第十六号 一九九七年四月二十五日発行  
編 発行人 行人野秀  
集 人 渡 部 村透治  
F 電話 日比谷ダイビル一七〇五号室  
A X (三五九五) 二四六八四番  
三九三二番



タンゴの国から 泳げペヘレイ 養魚水槽に集まった協会の皆さん P.13

## 特集1：エバ・ペロンと日本、その知られざるつながり

— 剧団四季の会報 “La Harpe” 2月号より転載 —

貧しい私生児として生れながら、アルゼンチンの大統領夫人の座にまで駆けのぼった女性、エバ・ペロン。33歳という若さでの彼女の死は、アルゼンチンの国民を悲しみの涙にくれさせました。そのエバ・ペロンは、生前にどうやら日本と深い結びつきがあったようなのです。エビータと日本？ この不思議なつながりを日本アルゼンチン協会の野村秀治氏（'60～'63、大阪商船ブエノスアイレス在勤）にお伺いしました。

— 私達日本人からするとアルゼンチンといえば地球の裏側、遠い国という、イメージがあります。しかし、移住の歴史などを振り返ると、このふたつの国のつきあいはずいぶん古いんですね。



エビータのサイン：1951

野村 実は、移住より古い話は、日露戦争なのです。ロシアのバルチック艦隊を迎討つために、東郷司令長官率いる連合艦隊は血眼になって各国に軍艦を求めました。その時日本に手をさしのべたのがアルゼンチンだったのです。アルゼンチンは当時の最新鋭のイタリア製軍艦を2隻、日本に譲ってくれました。これが日本海海戦で、大活躍をしました。

— 日露戦争と言えば、ホアン・ペロンは日露戦争に関する本を出していますね。（注：今回の公演プログラムの中で神戸大学大学院教授・ペロニズム研究家の松下洋先生も言及されています。）

野村 ええ、ペロンは東郷元帥のことをとても尊敬していたようです。日露戦争の後ですね、日本からの移住がいよいよ本格的になったのは。

— 移住した日本人は、当時どのような仕事に就いたのでしょうか。

野村 大部分は農業です。それから町では洗濯屋が多かった。その頃、日本人は通称、“ティントレリア”（スペイン語で洗濯屋の意）と呼ばれていました。もっとも最近の二世、三世には企業で働く人や教員が増えました。全体的に日系人は、裕福になりましたね。

戦後の日本に手をさしのべたエバ・ペロン

— 第二次世界大戦でも最後まで中立を保とうとしたアルゼンチンですが、その終戦後の混乱の時期に、エバ・ペロンと日本にはどのようなつながりがあったのでしょうか。

野村 実は、エバ・ペロン財団の名前で日本へ援助物資が届けられているのです。まず、第一回目は、1949年5月、食料品44トン、衣料品7千箱が横浜の港につきました。

この写真は、翌年にやはり横浜に援助物資が着いた時の模様です。  
—日本人も写っていますね。



外語大学生と伊藤社長（大阪商船・中央）、マトヴィッヂ船長（その右）

野村 彼らは当時、東京外語大学でスペイン語を専攻していた学生達です。このリオ・アガペイという船の入港を歓迎して、アルゼンチンの国歌を船上で歌ったそうです。これには本国からの乗組員もとても感動しました。学生達をサロンに招き入れ、ワインで歓待したそうです。

—まさに日本の食糧事情が切迫していた時期ですよね。アルゼンチンからの援助は、日本にとってどんなに大きな助けになったことか…。

野村 このリオ・アガペイについては面白いエピソードがあります。当時の日本は連合軍の占領下で、リオ・アガペイの入港に際しても満艦飾やマストの上に日本の旗を掲げることは許されなかった。しかし、その船のマトヴィッヂ船長は、断固として日本の旗を降ろさなかったんですね。おそらく、これが、戦後、公式の場で掲げられた最初日の丸でしょう。これは打ちひしがれていた当時の日本人にとってみれば、本当に嬉しいことです。

—しかし、なぜエバ・ペロンは日本に援助物資を送ったのでしょうか。

野村 やはり貧しさに苦しんでいる人々をほおっておけなかったのだと思います。ミュージカルにも描かれているように、彼女の慈善活動は賛否両論です。しかし、幼い頃の自分自身のつらい体験から、アルゼンチンと古くからのつながりがある日本人々が苦しんでいるのをみてたまれなくなったのだと思います。

ちなみにリオ・アガペイのマトヴィッヂ船長は、本国に戻り、“日の丸”の一件をペロン大統領に報告。すると大統領はたいそう喜び、マトヴィッヂに勲章を与えたということです。

日本の裏側にあるアルゼンチン、その国との友好には実は長い歴史があります。野村さんは最後に、「そういうえば、日本が2002年のサッカーのワールドカップ開催地として名乗りをあげたとき、誰よりも先に支持を表明してくれたのもアルゼンチンでした」と笑いながら教えてくれました。

## 特集：2 アルゼンチンの金鉱、銅鉱に群がる世界資本

アルゼンチンでいま、異常な現象が起きている。空前の鉱山投資ブームがそれだ。1992年の国営、州営などの鉱山面積はわずか700万ヘクタール、4年後の96年には1836万ヘクタールと2.6倍に急増し、主として外国の資本による開発が進められている。

計画に参加した企業は96年に67社、国籍はオーストラリア8社、アメリカ11社、カナダ22社、メキシコ1社、ボリビア3社、フランス2社、チリ1社、イギリス3社、南アフリカ2社、アルゼンチン1社などと多岐にわたっている。

多くの開発プロジェクトの一つ、Bajo de la Alumbreraについて見てみよう。この銅および金の鉱山はアルゼンチンの北西部、貧しいカタマルカ州にあり、州政府が所有し、オーストラリアとカナダの資本で開発されている。オーストラリアのMIM社によれば、この鉱山は「2000年までに世界最大の銅鉱山、世界第14位の金鉱山になるだろう」と予測している。

なぜ、この「鉱山ブーム」が急速に発生したのか？

2つの要因が指摘されている。まず、マクロ経済の好転、すなわち、80年代、90年初頭のアルゼンチン経済への不信感、ハイ・リスクが、新しい経済政策により払拭され国際的に評価を得てきたこと、ついでアルゼンチン政府とりわけメネム政権が鉱山開発の規制緩和、民営化を積極的に押し進めてきたことである。

関連の法律は、規制撤廃と開放経済の基準を定めた「鉱業投資法」(No.24,196)から「鉱山環境保護法」(No.24,585)に至るまで、「消費税減免法」をふくむ法的枠組みが整備され、アルゼンチン政府の並々ならぬ熱意がうかがえる。

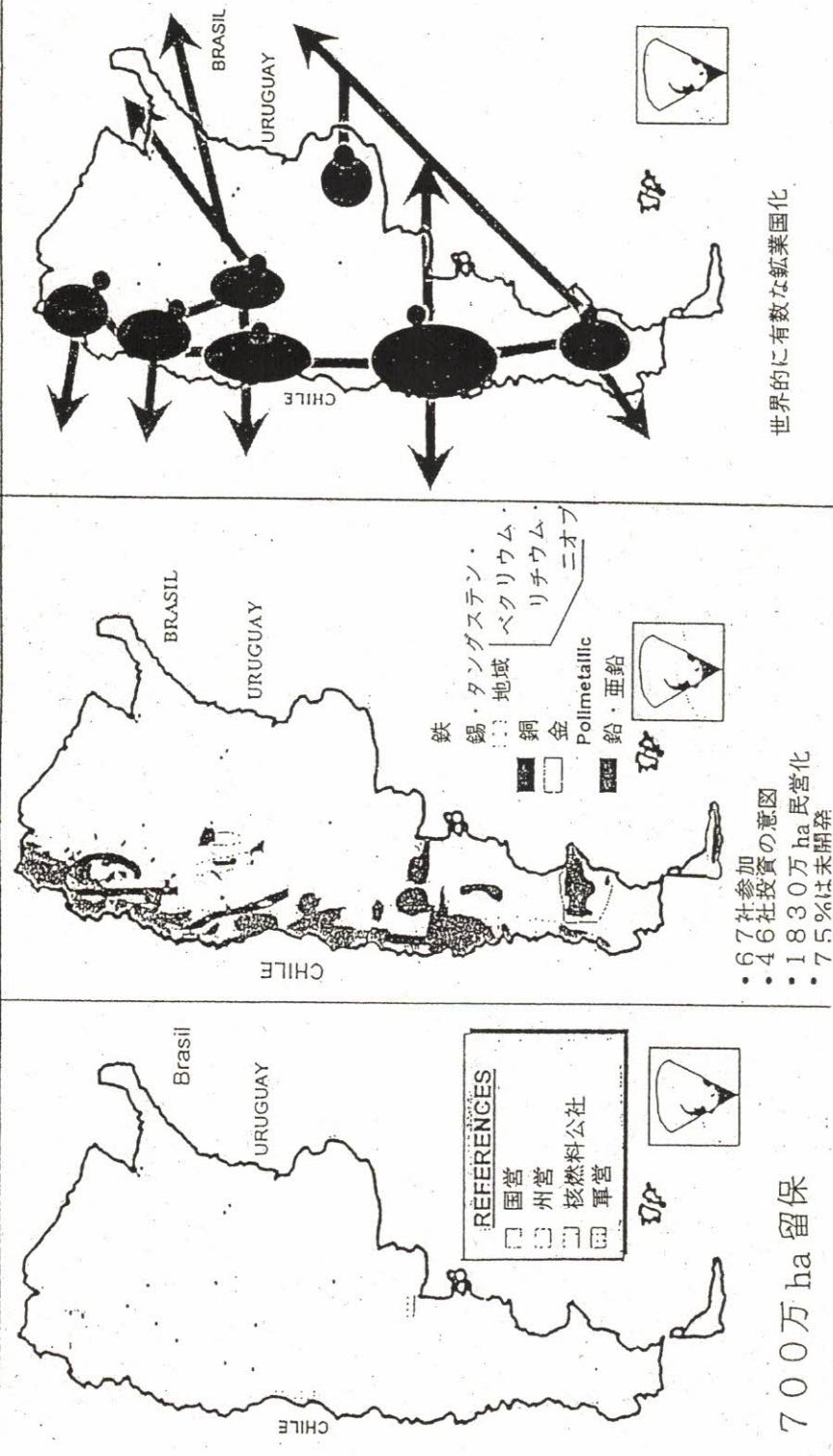
さらに注目されるのは、さる1月に締結された「アルゼンチン／チリ鉱業統合条約」だ。アンデス国境を挟んで両側に広がる鉱脈の効率的な開発を可能にするもので、鉱山開発および運営のための資材、機器、車両、人員の移動を簡素化することになった。これによってアジア・太平洋地域からの必要器材の調達、将来的には鉱産物のチリ側の港湾からの輸出も容易になるインフラも整備される可能性ができた。

アルゼンチンは、世界で唯一、残された「最後のマイニング・フロンティア」と言われている。その裏付けとして世界各国から金鉱、銅鉱（ほかに錫、鉄、タンゲステン、ベクリウム、リチウム、ニオブ、鉛、亜鉛など）に民間投資が集まっている。先日の日ア経済合同委員会会議の席上、D.メイラン経済省鉱山局長は「今年になって、すでに76社になり、今後さらに増えるだろう」と述べていた。

しかし、わが国からの民間投資の動きは、まだ聞こえてこない。

# マイニング分野への民間投資

1992年当時 1996年当時 2005年の目標



700万ha 留保

- 67社参加
- 46社投資の意図
- 1830万ha 民営化
- 75%は未開発

世界的に有数な鉱業国化

(日ア経合同委員会第一分科会資料より)

## 日経新聞（春秋コラム）が指摘した「よみがえるアルゼンチン」

半世紀も前のアルゼンチンは世界有数の豊かな国だった。資源が十分あり、第二次大戦に参加しなかったことも幸いしていた。日本とはちょうど地球の反対側にありながら、互いに親密な関係を結んでいた。戦後の貧乏国・日本に大量の援助物資を送ったことでも知られる。

▶当時、同国にはエバ（エビータ）・ペロンという世界で最も注目される女性がいた。庶民出の女優で、大統領夫人の座を射止め、労働者階級の地位向上政策を進めた。国際的な評価はさまざまだったが、国民の人気を一身に集めていた。いま日本各地で上映中のミュージカル映画「エビータ」は、エバの華やかにして短い一生を描いている。

▶この映画を見て、ああそうだった、と思い出すことが多かった。エバの死後には軍事クーデターがらみの派手な政変が続いた。ペロン大統領の亡命と華々しい復帰。彼の死後に三番目の夫人が大統領になり、数年後に解任。その後の大きなニュースといえば、フォークランド紛争と80年代後半の年間何千パーセントという超インフレくらいのものか。

▶近年のアルゼンチンは古美術品の穴場といわれ、落ちぶれた金持ちのような寂しい感じがつきまとっていた。ところが同国にゆかりの深い人々は、ここ数年の政情や経済の安定ぶりを強調している。韓国、台湾などとの経済交流が目立つそうで「それに比べ日本は」という言葉が続く。立ち直りつつある親日国に、もっと目を向けたいと思う。(3月16日付)

## アルゼンチン政治・経済速報

### ◎政治・経済

東銀リサーチインターナショナル

小林 晋一郎

○97年1-2月の政府財政赤字は5.6億ドルで97年第一四半期のIMFターゲットの10億ドルの達成は可能の見通しとなった。97年1-12月の財政赤字ターゲットは30億ドル(96年の財政赤字実績は60億ドル)であり、この目標達成には更なる支出削減が必要となろう。

○カバロ前経済大臣は本年10月の下院選挙に立候補する旨、さらに99年の大統領選挙に出馬することを明らかにした。

カバロはアルゼンチンには密輸、脱税、腐敗を法的に保護するシステムが存在し、その責任はコラチ内務大臣とエリヤス法務大臣にあるので両大臣に更迭を求め、メヌム大統領はこれらの事実を知っていると記者団に発言した。

- フランスのシラク大統領が3月16日から18日にかけてアルゼンチンを訪問、主にメルコスルとEU間の関係強化が話し合われた。シラク大統領は来年にメルコスルとEU首脳会議の開催を提案、メヌム大統領に参加を要請した。
- トヨタ自動車は3月21日、ブエノスアイレス州サラテ工場の開所式を行った。式典には豊田会長をはじめとするトヨタ自動車グループの代表者のほかに、経団連関係者も出席した。アルゼンチン側はメヌム大統領、フェルナンデス経済大臣、デュアルテ州知事らが参加した。また開所式の前日、日本側代表者とメヌム大統領ほかと日亜対抗ゴルフ大会が開催された。
- クロニスタ紙によれば今後5年間に約230億ドルの外国直接投資が見込まれる。これは現時点で判明している各企業の投資計画をもとに調査したものである。投資額を国別に見ると第一位が米国(約30%)で以下カナダ、チリ、フランス、オーストラリア、オランダ、イタリア、英国、スペイン、ドイツの順である。投資分野別に見ると自動車・自動車部品が突出、以下に食品加工、鉱業、石油化学が続いている。
- 政府は1月、金額20億ドル、期間20年、クーポン11.375%のグローバルボンドを発行した。20億ドルの発行計画に対し60億ドルの申込みがあるなど投資家の感触がよかつたために、当初は半分を5年物で発行する計画であったが全額を20年物として発行した。市場関係者によれば政府は100年物アルゼンチン国債の提案を受けている由。
- メヌム大統領は2月14日から22日、ベトナム、タイ、シンガポール3カ国を訪問、大統領には約50人の財界人が随行した。アルゼンチンのアジア重視の外交姿勢が窺える。
- 懸案であった郵便事業の民営化は大統領令により実施される見込みである。コンセッション期間は30年、義務投資額は最初の10年間は毎年2千5百万ドルで民営化移行は9月の予定。野党のラジカル党は大統領令によるやり方に反対している。
- アルゼンチンの民間企業として初めての国際金融市场でペソ建て債券が発行された。発行企業はCEI Citicorp Holdingsで発行金額は5億ドル。3つのテュランシ

エよりなり1億ドルが5年、クーポン8.5%、1億7千5百万ドルが10年、クーポン11.25%、2億2千5百万ドルが10年、クーポン9.75%である。これはアルゼンチン企業の新しい資金調達方法で、またコンバーティビリティープランに対する国際的信頼を示すものとして注目される。

○アルゼンチン政府はアルゼンチン航空の株主であるイベリア航空とアンデス・ホールディング（メリルリンチ48%、SEPI-スペイン政府持ち株会社-42%、バンカーズトラスト10%）が持ち株を売却するため新しい投資家を探すことを了承した。

アルゼンチン航空は90年に民営化されイベリア航空が購入したが同社の業績悪化からアルゼンチン航空から撤退を模索していた。アルゼンチン航空の現在の株主構成はイベリア航空10%、アンデスホールディング73.5%、アルゼンチン政府5%、従業員10%、一般株主1.5%である。

アルゼンチンは「まったく別の国」になった  
第18回日本アルゼンチン経済合同委員会会議

ラ米エコノミスト 志村四郎

3月26日、新装なった東京国際フォーラムで日本側の結団式が、諸橋團長（三菱商事会長）のもとで催された。席上、外務省堀村審議官は最近の日ア事情を説明し、こう締め括った。「アメリカは、いまのアルゼンチンを〈老舗（しにせ）の復活〉ととらえている」。

4月7/8日、ホテル・ニュー・オータニに日本側80名、アルゼンチン側80名が参集した。

ア国側は、本会議が国家的に重要な活動と認定する大統領令を公布し、政府高官を多数まじえ並々ならぬ熱意を示していた。

全体会議では両国の経済事情の説明があり、特別講演は日本側は石原通産政務次官、ア国側はフェルナンデス経済・公共事業大臣が所信を述べた。経済大臣は、ア国は89年以来の経済近代化が奏功し、インフレの鎮静化（年1%以下）、経済成長率の向上（年5%以上）、為替の完全自由化、国営企業の民営化、市場開放、規制緩和により投資機会が増大し、年間50億ドルにのぼる外国直接投資が行われるようになったと説明、この成長を持続させるために日本の優秀な設備機械の輸入が必要であると訴え、同時にア国はメルコスールの進展を背景として、良質な労働力、豊かな天然資源、エネルギー資源を持つ魅力的な投資先になっていると強調し、注目を浴びた。

ついで第一分科会では、日ア貿易、ア国の水産、鉱業、観光、運輸、港湾、第2分科会ではア国の投資環境、電気通信市場、資本・証券市場、日本の海外投資、対ア進出企業について、7時過ぎまで熱心に討議された。

歓迎晩餐会のエンターテイメントは、日本のパジャドール（遊吟詩人）高野太郎一座のタンゴとフォルクローレの演奏を楽しみ、飛び入りでフェルナンデス経済大臣夫妻がステージで華麗なるタンゴのダンスを披露し拍手喝采を浴びるという一幕もあった。

第2日は、経済・投資セミナーでア国経済とメルコスールおよびAPEC、WTOとの関係について説明があり、閉会式では来年、日ア修好100年の記念すべき年にブエノスでの再会を期して散会した。

このたびの会議の特徴は、世界的な大競争時代における日ア両国の「新たな協力関係」が構築されていく確かな手ごたえがみられたこと。懸念されたア国通貨の兌換法による経済再建は、確実に定着していること。つまり、アルゼンチンは過去の暗いイメージを払拭し、「まったく別の国」として再生している実態を確認したことだ。

### タンゴ物語(5)

津田正夫

#### ◎ 第二次大戦後のタンゴ

戦争直後1946年アルゼンチンで久し振りに大統領選挙戦があった。それは私がアルゼンチンでみた最初の大統領選であった。その選挙は、ペロンが初めて候補者として選挙戦に乗り出したときで、また反ペロン派は英米資本の援助を得て米びいきの候補者をたてペロンを落選させようとした。国を挙げての熱狂的な選挙戦だった。ところが、候補者が各演説会で演説し、聴衆が熱狂的にその候補者の名を連呼しているその後で、マイクから流れてくる音楽が「我が懐かしの草原よ」とか「カミニート、愛の小道よ」とかいうタンゴが流れて來るので、我々日本人には選挙戦というイメージとおよそかけ離れた感じを抱かせた。

戦前も戦時中も、昔ほどではなかったがブエノスアイレスではタンゴを聴くに事欠くことはなかった。コリエンテス通りの「チャントクール」というキャバレーにはダリエンソの楽団が立てこもっていたし、また「バンプ」「ノヴェルティ」「タバリス」などのキャバレーはそれぞれのいいタンゴ楽団を持っていた。「アフリカナ」という喫茶店のタンゴも有名だった。

ところが戦後に行ってみたら、そのタンゴがすっかりさびれてしまっていた。街に溢れていたタンゴが蒸発してしまった感がある。もっとも大使という職業柄、キャバ

レーに行けなかったので、余りその方面的知識がないからそう感じたのかも知れぬ。しかし私の友人などが、いいタンゴが聴きたい、聴く場所がなくなったといっているところを見ると、私の感じは当たっているらしい。

それで私はキンケラ・マルチンに頼んで、公邸に、いろいろのタンゴバンドに来て貰い、昔タンゴを楽しんだ人々を招いた。これにはカナロも来てくれた。ダリエンソも演奏してくれた。数えれば随分有名なバンドや歌手が毎月1回ずつ来てくれ、アルゼンチンの人々から喜ばれた。時にはうんと昔風のタンゴを踊ってくれる踊り子が来ることがあったが、その女性踊り子を相手に私の友人たちが、若い日を思い出してアクロバット式のタンゴを踊り、奥さんから睨みつけられているものもいた。

一度などは、昔タンゴの名手でもあったといわれたフィリベルトが、来会者の求めに応じてカナロ夫人を引っ張り出し、旧式の「ガルディア・ヴィエハ」のタンゴを踊って、一同の大喝采を浴びたこと也有った。

## ◎ 大統領への陳情

タンゴ好きの私には、在ア12年の内、タンゴについていろいろの思い出があるが、その内で今思い出しても吹き出したくなるエピソードがある。

ある日のこと、キンケラ・マルチンが大使館に電話をかけてきた。要件は、「大使館の近くのカフェにフィリベルト、カナロの二人といふ、ちょっと相談したいので来てくれ」とのことだった。それで仕方なく、教えられたカフェに行って、なんだ、と訊いたら用件とはこれこれだ、と3人がかわるがわる話す。

「タンゴは日1日とさびれている。このままではプエノスアイレスからタンゴは消えていくかもしない。それで3人そろって大統領に会い、政府がなんとかするよう陳情したい。しかし我々は大統領政府に行ったことはないし、またフロンディシ大統領をみたこともない。君はよく知っているだろうから、大統領に会わせてくれ」

ということだ。私は彼等の余り突拍子な考えに思わず吹き出し、「僕は日本の大使だよ。日本の大使がアルゼンチン人をアルゼンチンの大統領に会わせるなんて滑稽じゃないか。アルゼンチンの名士の君たちは誰からも知られているから、誰にでも紹介して貰うのが筋道じゃないか」

と云ったが、どうしても云うことを聞かない。「日本の大使がいけなければ、タンゴの愛好家として我々3人を大統領に会わせてくれ」と云う。

しかたなく承知したが、さて大統領にその時間があるかどうか分らない。それで私は大使館に電話して、私の秘書に事情を云って大統領の秘書官に、こんな顔ぶれだから何とか時間を作ってくれるよう交渉して呉れと云って一応電話を切った。するとものの10分も経たないうちに、私の秘書からの電話で、もうすぐ大統領は昼食のため部屋を出られるから、すぐ来てみて下さい。間に合わなかったらまたの機会にしましょうとのことだと云って来た。(つづく) (筆者(故人)は元駐アルゼンチン大使)

## アルゼンチン・スタディーセンターへの留学案内

国際教育交換協議会 (Council on International Educational Exchange, 本部はニューヨーク) 日本代表部が、アルゼンチンの大学キャンパス (Facultad Latinoamericana de Ciencias Sociales 及び Universidad de Buenos Aires) 内に設置されているスタディーセンターの留学希望者を募集しています。

### 1 期間および費用 :

1997年	7月下旬～12月中旬 (20週間)	\$ 7,950 ドル
1998年	3月中旬～ 7月下旬 (20週間)	\$ 7,950 ドル
一年間	7月下旬 (97) ～7月下旬 (98)	\$ 13,750 ドル

### 2 使用言語 : スペイン語

### 3 研修分野 : スペイン語、国際関係論、教育システム、経済学、歴史、社会学など

### 4 滞在先 : ホームスティまたは学生寮

### 5 費用に含まれるもの :

授業料、オリエンテーション、宿泊費（朝食付き）、文化活動、エクスカーション、及びフィールド・トリップ、保険など

連絡先 : 国際教育交換協議会日本代表部 ☎ 03-5467-5503 (野口)

## 現地だより

### ◎ 天皇、皇后両陛下のご訪ア

在ア日系団体連合会は、6月上旬にご訪アされる天皇、皇后両陛下の歓迎式（案）をパレルモ日本庭園茶亭において行う予定である。

### ◎ ガウチョ村建設進む　日亞修好百周年に向け

ガウチョ・ハボネスまたはパジャドール・ハボネスとしてア国の芸能界にもよく知られている高野太郎氏の構想の下に実行に移された千葉県長南町におけるガウチョ村（最近アルゼンチン村と変更）の建設工事は、来年の日亞修好百周年に向けて記念するプロジェクトの一つとして急ピッチで進められている。このプロジェクトの最大の理解者であり、且つ協力者である仁茂田長南町長の処にコスキン市長のコンスタンソ氏からコスキン民謡祭へ招待があり、これを受けて仁茂田町長を頭にカンデラリア社長の刀根英子女史及び高野太郎など一行6名が、去る1月17日コスキン市に到着、市庁を表敬訪問、市を挙げての歓迎会に臨んだ。コスキン民謡祭前夜という多忙の身にもかかわらず、同市長の心を込めた対応には一同すっかり感

激、長南町からコスキン市に桜の苗木百本の目録が贈られた。

コスキン市も長南町も小さな町だが片や民謡祭で片やガウチョ村の建設と、夫々抱く夢は果てしなく、「コスキン市と長南町は姉妹都市の関係を結ぶべきだ」というような話まで発展、歓談は夜明けまで続いた。

翌18日はコスキン民謡祭の幕開け。高野太郎氏がガウチョ姿で出演、見事なパジャドール振りを發揮し、日系人は勿論、ア国人観衆を湧せた。特にこの機会に高野太郎氏にメネム大統領とア国民謡界の大立者ランドリシーナ氏から夫々クリオージョ産馬計2頭が贈られた。その贈呈式が舞台の上で行われた時、観衆の興奮はクライマックスに達し、嵐のごとき拍手と歓声は暫し止むことがなかった。

日本人のタンゴ好きはア国人の心を融かすものとして親日感情を煽りたてている。ガウチョ・ハポネス高野太郎の登場と日本におけるアルゼンチン村建設のプロジェクトはア国人の親日感情にいやが上にも拍車をかけ、首都の新聞は挙げて高野太郎をガウチョ姿の写真入りで全頁を割いて紹介している。（以上らぶらた報知紙より）

### 文化行事のお知らせ

#### ◎ オルケスタ・アストロリコ in 早稲田

日 時：5月18日（日） 15:00開演（14:30開場）

場 所：早稲田大学 大隈講堂

出 演：演奏 7to アストロリコ、ダンス フリオ&ミキ、歌サヤカ

入場料：無料（全席自由）

連絡先：早稲田大学学生生活課 ☎ 03-5286-1836

#### ◎ タンゴ5月祭（革命記念コンサート）

日 時：5月23日（金） 18:30

会 場：よみうりホール（有楽町 そごうビル7F）

歌：菅原洋一、前田はるみ

入場料：S席6,000円、A席5,000円、B席4,000円

連絡先：東京音楽文化センター ☎ 03-3501-9188

#### ◎ 第1回河口湖ユパキン祭り

日 時：5月25日（日） 11:00～18:00

場 所：山梨県河口湖町 円通寺・円形劇場

フォルクローレ・パンパの吟遊詩人 ビクトル・ベラスケ

コンサート出演者：グループ・カンデラリア・高野太郎 他

会 費：5,000円（入場料、昼食（アサード）、コンサート代込み）  
主 演：ユパキン祭実行委員会  
後 援：アルゼンチン大使館、（社）日本アルゼンチン協会  
連絡先：円通寺 ☎ 0555-72-0279  
高野太郎（当協会員） 事務所 ☎ 03-3582-4658

◎ 鍵盤の魔術師エンリケ・クッティーニのタンゴ演奏

日時・場所：6月13日（金）14:00と18:00 赤羽会館  
6月15日（日） " " 世田谷区民会館  
7月13日（日） " " なかのZERO  
入 場 料：各会場とも ¥3,000円（全自由席）  
連 絡 先：☎ 03-3726-4950 国際文化交流協会 原田直二（当協会員）

◎ 第2回安田ペヘレイ養殖場見学ツアー

4月12日（土）好天にめぐまれ、当協会員等50余人が安田ペヘレイ養殖場を訪れ、安田代表（当協会監事）の説明を聞きながら、多数の水槽の中にいる20万匹のペヘレイを見学した。

昼食では、コリコリした白身で甘味のあるペヘレイの握り寿司、天ぷらを賞味



し、さらに戸外でアサードが行われた。焼肉にかけるタレ「チミチュリン」はブエノスから参加された光田ペヘレイ会長の夫人手作りで、アサードの味を引き立ててくれた。

土屋埼玉県知事（当協会名誉顧問）よりは祝電、高野太郎氏（当協会員）よりワイン・サン・フェリペ（1ケース）の寄贈をいただいた。参加者一同で飲みながら、パジャドール・ハボネス（吟遊詩人）高野太郎一座（カンデラリア）がガウチョ衣装で歌うフォークロールを聞き、飛び入りでマリキータ（帆足まり子当協会員）の「サンバ・デ・エスペランサ」に喝采、最後に一同輪になって「花まつり」の曲にあわせて踊り回り、楽しい一時を過ごし、安田代表始め㈱安田社員の皆様に感謝しつつ辞去した。

## ◎ 華麗なるポリー・フェルマン ピアノ・リサイタル

アルゼンチン大使夫人のポリー・フェルマンさんのピアノ演奏会を、3月20日彩の国さいたま芸術劇場で聞いた。坂東真理子埼玉県副知事をはじめ満員の聴衆は、日頃なじみの薄いイベロ・アメリカのクラシック音楽に、陶酔した。

導入は有名なスペインのアルベニス作曲のタンゴから、アメリカ、コロンビア、ブラジルの代表的な作曲家の作品が、華麗なる演奏で紹介されていく。

ブラジルのヴィラ・ロボスの名曲から、アルゼンチン・タンゴで知名度の高いアストロ・ピアソーラまで速いテンポの難曲を見事なテクニックで演奏。圧巻はアルゼンチンの代表的な作曲家ヒナステーラの名曲集、力強いタッチでガウチョの躍動する情景を再現していく。パンパの土の匂いさへ漂わす演奏。ニューヨーク・タイムズが絶賛した理由が納得できる。

アンコール連続の最後は、「さくら変奏曲」。おなじみの「さくらーさくら」の日本の雰囲気をたっぷり聞かせ、割れるような拍手。アルゼンチン外交官夫人を超えた、南米クラシックの音楽大使の絶妙な演奏だった。

## お 知 ら せ

## ◎ 「ARGENTINOS EN ASIA」(西語版) 頒布

前号でお知らせしましたように、在日アルゼンチン人の有志が、2カ月毎(次号4月第6号)に発行する会報にイベント、文学、会員の近況等を掲載し、無料頒布(但し、郵送料は各自負担 100円切手を貼付した封筒 120×235mm に氏名、住所を記入)しておりますので、ご関心の向きは下記にご連絡願います。(当協会に2月第5号の余部があり、ご希望者に頒布します)

〒150 渋谷区篠谷町13-24、エバーグリン・パーク・ホームズ、  
SRA. SILVIA FRENCH TEL/FAX 03-3496-0894

## ◎ 第11回タンゴ南米親善の旅ご案内

日 程：8月20日(水) 成田発 RG837

21日(木) ブエノス・アイレス着 RG940

26日(火) 同 発 AR1224

同 日 モンテビデオ着

9月 1日(月) 同 発 RG917

3日(水) 成田着 RG832

費 用：お一人様 ¥590,000円

連絡先：〒415 静岡県下田市柿崎4-13

☎ 0558-22-2790 木田寿司（当協会会員）

お取り扱い：㈱旅行俱楽部（〒150 渋谷区篠谷4-11）☎ 03-3463-6090

◎ 第38回海外日系人大会の開催

日 時：5月14日（水）、15日（木）、16日（金）

場 所：千代田区平河町2-7-5、シェーンバッハ砂防

交 通：有楽町線 半蔵門線4番出口 徒歩1分

参加費：8,000円（当協会にパンフレット有り）

連絡先：（財）海外日系人協会 ☎ 03-3357-8331

◎ 総会の開催について

（社）日本アルゼンチン協会の第41回総会は、きたる5月21日（水）午後2時半より、当協会の日比谷ダイビル（4階会議室）で開催致します。（なお、法人会員及び個人正会員には、別途ご案内申し上げますので、ご臨席下さるようお願い申し上げます。）

◎ 会費の納入について

平成9年度分の会費（法人会費、個人正会員費及び賛助会員費）につきましては、それぞれ請求書を会員各位あて送付いたしますので、何卒宜しくご納入の程お願い申し上げます。

◎ ワイン・サン・フェリペ（白、赤）頒布（ケース単位）

750ml 1本を会員特価で 1,500円（1ケース 18,000円）

375ml " 1,000円（1ケース 12,000円）

（消費税込み、送料は別）

連絡先：東京貿易（株） ☎ 03-3555-7353（菊地）

人事往来

（1月～3月）

1. 来日

ディ・テラ・ブエノス・アイレス大学教授 96年12月～2月

（神戸大学招待、2月18日在京ア大使館で講演）

カンペル外務省国際経済関係担当次官夫妻 97年3月15日～22日

マウリシオ・マクリ ボカ・ジュニア・サッカーチーム会長

3月25日～28日

光田 正 日ア・ペヘレイ会長

3月14日～4月13日

## 2. 訪 ア

豊田 経団連会長（高垣東京三菱銀行頭取他同行）3月19日～21日

## 3. 在京アルゼンチン大使館

離任 ロベルト・ポテンテ書記官（ベトナムに転職）96年12月30日

シルバーナ・ボボーネ書記官（同 上）

着任 ミゲル・ペジョソ公使 97年1月 9日

ロベルト・ドゥパイ書記官 1月 15日

フェルナンド・ラス参事官 2月 3日

## 4. 計 報

野本作兵衛氏（会報第9、10号参照）は、老衰のため3月21日（金）ご逝去（102歳）されました。

なお、故人は境町立長田小学校卒で、在日アルゼンチン大使館と同校との友好親善関係を当協会を含め60余年持続した功績により、100歳の誕生日にアルゼンチン政府より5月功労勲章を叙勲された。心からご冥福をお祈り申し上げます。

### 事務局からのお願い

#### 「個人正会員および個人賛助会員」募集

個人会員制度の概要は次のとおりです。

①☆正会員（定款上総会の構成員。議決権有り） 年会費 ¥ 10,000

☆賛助会員（定款上総会には非構成員。議決権なし。

その他は原則として正会員に準ずる） 年会費 ¥ 5,000

②会報：当協会の発行する「会報」を年4回お届け（無料）することにより、日ア間の最新情報を政治、経済、文化などに亘って提供します。

③文化活動ないし演奏会などの催物のご案内、割引案内を行い、ご希望の分野にご参加（実費徴収）いただきます。

④定例総会のほか「親睦会」を開催し会員相互および在京大使館との交流を計ります。アルゼンチンに関心の深いご友人、関係先の方々を、是非ともご勧誘ください。事務局にご一報あれば加入申込書を、ご本人あて郵送いたします。

⑤郵便局振込口座 00120-6-581381

あとがき

○ 次号（17号）は7月中旬発行予定です。